2026年度 成城大学大学院文学研究科主催
学術講演会

話体研究の探求

―役割語、ヴァーチャル方言、翻訳話体等―



2026年
12月10日(木)
15:30 – 17:00（開場 15:00）
会場：成城大学 3号館 2階 321教室

入場無料
事前予約不要

※講演中の録画・録音は固くお断りします。
※飲食禁止 蓋つきの飲み物はお持ち込みいただけます

講師



金水 敏（きんすい さとし） 氏

（放送大学大阪学習センター所長、大阪大学名誉教授）

専門は日本語史および役割語研究。神戸大学文学部助教授、大阪大学文学部教授等を経て2022年に大阪大学大学院文学研究科を退職後、現職にいたる。2020年より日本学士院会員、2023年に文化功労者に選定。

主な著書に、『ヴァーチャル日本語　役割語の謎』（岩波書店、2003/2023年）、『日本語存在表現の歴史』（ひつじ書房、2006年、新村出賞受賞）、『よくわかる日本語学』（ミネルヴァ書房、2024年）、『大阪ことばの謎』（SBクリエイティブ、2025年）他 。

開催趣旨

「文体研究」はギリシャ時代から存在すると言われるが、創作物の中で人びとがどのように話すかということを扱う「話体研究」はこれまでの蓄積が乏しい。しかし日本語に関して言えば、役割語研究（金水 2003他）、ヴァーチャル方言研究（田中ゆかり 2011/2024他）があり、これらは広く話体研究に包摂される。話体研究は文学と演劇、マンガ・アニメ・ゲーム等のポピュラーカルチャー作品等を架橋する新たな研究の沃野である。今回は、新たに翻訳によって生じた翻訳話体を取り上げ、その拡がりについても触れる。

■ お問い合せ：成城大学大学院文学研究科
E-mail： bunken@seijo.jp

■ 成城大学大学院文学研究科ホームページ
https://www.seijo.ac.jp/graduate/falit-grad-school/